

道博協ニュース

第46号

発行所 平成6年3月31日
北海道博物館協会
事務局 札幌市厚別区厚別町小野幌
北海道開拓記念館内
電話 011-898-0456
FAX 011-898-2657

第33回道博協旭川大会

(七月七・八日) 骨子決まる

平成五年度、最後の役員会が三月二十四日、午後三時から、札幌市南区定山溪の溪流荘(札幌市施設)で、会長以下十八名の役員及び事務局員が集まって開催されました。

会議の冒頭に、去る三月十二日に急逝されました(財)アイヌ民族博物館名誉会長山丸武雄氏(元道博協副会長)を偲んで黙祷をささげました。会議は、第二回役員会後の経過報告(事務局日誌参照)のあと、(一)平成五年度事業報告ならびに決算(見込み案)について、(二)平成六年度事業計画案および会計収支予算(案)について、(三)第33回道博協旭川大会開催案について等の案件が提案され、各々、慎重な審議が行われました。特に、第33回北海道博物館大会旭川大会の骨子が次のように決定しました。

第33回北海道博物館大会開催要領

- 一、趣旨 北海道の博物館・園および関連施設に勤務する職員ならびに博物館・園等の活動に協力する人々が集まり、博物



平成5年度 第3回役員会

館等を取りまく課題と今後のあり方を研究討議し、広く社会教育の振興に寄与する。

- 二、主催 北海道博物館協会、旭川市教育委員会、日本博物館協会北海道支部
- 三、後援 北海道教育委員会、旭川市、日本博物館協会
- 四、会期 平成六年七月七日(木)、八日(金)
- 五、会場 旭川市大雪クリスタルホール
- 六、大会テーマ「生涯学習時代の博物館・園と職員」
- 七、大会日程
- ・ 第一日目・七月七日(木) 総会・大会・懇親会
 - ・ 第二日目・七月八日

(金) 視察見学会
(史跡・施設等視察見学)

特に大会のテーマが「生涯学習時代の博物館・園と職員」に決まりました。これは、急速に拡大する生涯学習時代において、博物館等の社会教育施設がどのように対応すべきか、またそこで働く職員の現状はどうなのか、どのような課題があるのかを探ろうとするものです。

事務局では、今後、このテーマにもとづいて講演会講師やパネラーの選定を進めますので、会員諸氏の絶大なご協力を切に望みます。

(事務局長 野村 崇)

山丸武雄元道博協

副会長の訃

(財)アイヌ民族博物館名誉会長の山丸武雄氏(八〇才)は去る三月二十一日、呼吸不全のため逝去されました。氏は生前、本協会の理事、副会長として尽力されました。慎んでご冥福をお祈りします。

平成5年春期飼育技術者

研究会開催報告

日本動物園水族館協会北海道ブロック研究会が6月22、23日帯広市動物園を会場に29名が参加し開催されました。

会では22日に研究発表と講演、23日は昨年度に展示室を改修した帯広市児童会館と動物園の施設見学を予定しておりましたが、22日に行われた協議に時間が割かれたため、児童会館の見学は中止となりました。

講演は「ひがし大雪博物館の自然教育」と題し川辺百樹学芸員より同館で行われている自然教育について、環境教育の一環として考え、理念を押しつけるのではなく自然にふれる楽しさや自然を知る楽しさを大切にしていること。小観察会やスライド上映会、自然観察ガイド養成講座等が同館で養成されたボランティアの協力により進められていること等々、現状評価を含めて話していただきました。



また、動物園に望むこととして地域の野生動物情報の集積と自然教育の実施を提言され、飼育に参考となる希少種のキンメフクロウやミユビゲラ、シロフクロウ、ナキウサギ等の現況をスライドにより解説していただきました。参加者からは特にボランティアの養成と協力体制について熱心な質問が出されました。

海外の動物園や水族館ではガイドや飼育係員の作業に参加する等ボランティア活動は盛んです。我が国では普及されていない部門だけに興味を持たれ参考にさせて頂きました。研究発表は動物園7、水族館5の計12題が出され、活発な質疑応答が行われました。特に、今回は動物園水族館の教育活動に関わる発表が3題重なり、川辺さんの講演もあつた事から、様々な企画や話題等が提供されました。

演題名と発表者氏名
1. 水槽内で孵化したオグロコンニャクウオについて (オホツ 鈴木 勇)
2. 当館におけるサケビクニン (Carapocetus rastin) の搬入と飼育経過について (ニクス 下村明宏)
3. ヌマガレイのギログクチルス症薬浴治療試験 (小樽水 古賀 崇)
4. フンボルトペンギン過去2例における人口育雛での個体比較

(円山 清水 弥)
5. 広尾水族館における過去13年間のアザラシの保護収容状況等について (広尾 関千香子)
6. エゾキウサギの人口哺育について (帯広 瀬川浩一)
7. タスマニア館展示動物の繁殖状況等について (円山 高橋俊英)
8. 飼育動物への保定による疾病対策処置の現状と今後の展望 (小樽水 角川雅俊)
9. 動物園の動物及び社会への還元方法 (登別 前田菜穂子)
10. 自主企画・制作による特別企画展について (旭山 阿部 寛)
11. 園内サイン計画に基づく新しいパネルシステムについて (帯広市動物園 阿部彰一)

12. 「新施設紹介」爬虫類舎 (旭山 小管正夫)
※園館名は日動水3字略称
なお、研究発表に引き続き



行われた協議では研究会の開催時期、講演並びに技術講習等の実施、事務処理等々について話し合われました。最後になりましたが、講演を快く引き受けて頂きました上士幌町立ひがし大雪博物館川辺百樹氏に感謝申し上げます。

(帯広市動物園 阿部彰一)

原稿募集

「道博協ニュース」の原稿を募集します。現場からの提案、道博協に望むこと、館園紹介、博物館学関係書紹介など、事務局までお寄せ下さい。

増える施設と学芸員

北海道開拓記念館
学芸員 亀谷 隆

北海道内の博物館等施設も筆者の調査によれば五〇〇を数えるようになった。知らない間にこんなにも増えていたのか」というのが正直な感じである。

昭和二六年に博物館法が制定され、北海道内の主要都市に新たな博物館が開設されたり、それまでの郷土資料館が博物館と改称されるなど、博物館時代の幕開けとなった。

その後、博物館は極端に増加せず、昭和三〇年代は年平均五〜六館程度の増加である。この時期での特徴として、昭和三八年前後の理科、産業教育充実での科学館建設が多く室蘭や小樽、釧路などの都市に建設されている。

四〇年代になり、国が明治百年記念事業を計画したころより、出版などでも百という数字のついた企画が増えはじめた。

北海道も百年記念事業とし

て道内の十四支庁に歴史保存施設の建設などを補助事業として行うとともに、北海道開拓記念館を設置するなどし、その数も急激に増えた。

四〇年代における年平均での建設数は一四〜一五館園で、なかでも昭和四七年は一年間に二四館園が開設しており、一か月に二館園の割合となった。

このような増加の背景には前述した百年記念事業とともに、社会教育環境の充実が全国的な事業として行われた影響もあり、それまで規模の小さかった郷土資料室などが独立施設として開設した傾向を見ることができ。なかには地域の特徴ある産業や歴史などをテーマとした専門施設の開設もみられ、個人の偉業を扱った記念館なども設置されるようになった。

昭和五〇年代には四〇年代を遙かに越える数となり、年

平均二一館園を数えるまでにあり、なかでも道立の美術館や開拓の村などが設置されるなどの影響もあり、昭和五七年度は公立だけでも三〇館で、月に二〜三の施設が開設したことになる。

この時期での特徴として、企業や財団が経営する美術館や資料館の開設が多くなり、教育施設に文化や観光的な要素を含んだ施設が増え、収客数も増加する傾向を見せるようになった。

なかでも夕張市の石炭の歴史村は、街の活性化を計る施設として、当時としては大規模な計画と巨額の整備費を投入し、地域の特色を十分に生かして好評を呼んだ。

この五〇年代の後半において、北海道のおおよその市町村に郷土館などの施設が設置された状況になるとともに、函館や札幌、小樽などの都市は、分館や地域に相応した施設を新たに有するようになり、徐々に博物館園が地域にとって重要であるとの認識を得るようになった。

六〇年から平成五年にかけての約十年間では一八〇館園が開設しており、年平均一八を数える施設が建設したことになり、公立に比べ私立の数が多くなる傾向を示した。

その誘因となった要素は平成二年に北海道が宣言した観光宣言が大きく影響しており、より大衆が親しみを持つ内容での施設が各地に建設された。

その結果俗に言う「テーマパーク」が開設されるようになった。しかし、それらパークは社会情勢の変化とともに運営が思わしくない状況になっている。

このように、北海道の博物館園は年を追って増加する傾向にあるが、歴史、科学、産業、芸術という文化施設としての調和が保たれているかと言えば、決してそうではなく、今後の課題として考えていく必要がある。

また、施設は増加したがこれら施設を支える学芸員の数はそれに比例して増加していないことも大きな課題である。現在、約六〇〇名程度の職

員がこれら施設に従事している。そのうち約二〇〇名が学芸員であり、単純に施設数との比例では、一人で二・五館園の面倒を見ている計算になる。

最低でも一館園に一人の学芸員が必要であることは当然ではなからうか。

しかし、数だけ増やせば良いかと言えはそうでもない面もある。優れない職員では何の役にも立たないわけで、優秀な学芸員を選択する必要がある。

施設を良くも悪くもするのは人である。どんなに素晴らしい施設であっても、素晴らしい管理者と、素晴らしい学芸員とが一体とならなくては成功しないような気がする。

会費納入のお願い

本協会の円滑な運営のため会費納入を左記に願います。

(会費)

団体会費 一五、〇〇〇円

個人会費 三、〇〇〇円

(郵便振替)

小樽七二二九四一九

平成5年度道央ブロック 学芸員等会議を振り返って

平成5年度の道央ブロック学芸員等会議は、小樽市を会場に十二月三日・四日の両日にわたり開催された。

冒頭、東京動物園協会理事の矢島 稔氏を講師として、「地方博物館と自然史」の演題で講演がおこなわれた。矢島氏の三〇年におよぶ多摩動物公園での活動を中心に講演が進められたが、なかでも園内に設けられた小規模な昆虫室が、永年にわたる地道な活動の結果、やがて「昆虫園」へと発展してゆくプロセスには、我々学芸の職にあるものにとって専門分野の別を問わず、常に考え続けなければならない問題を含んでいる点で、興味深いものがあった。

地方博物館の果さなければならぬ役割・使命についても言及されているが、地方博物館施設は、地域レベルでの「情報収集」の場でもある。それゆえ博物館がおこなう資

料収集や調査・研究などの成果が一定程度「情報」として市民に還元されてゆく。この形式は、至極当然のことではあるが、利用する側のニーズを博物館側が把握し集約しきれているのか、依然問題の残るところであろう。こうしたことをスムーズに進めるためにも博物館のネットワークづくりが必要とされるのである。うが、人と人と、施設とあるべきなのか、どう結びつけばいいのか、北海道でのネットワーク化を進めるうえでの課題として、重く受け止めるべきなのかもしれない。

研究協議に入り、小樽市博物館学芸員の大原昌宏氏から「道央における自然史系学芸員とそのネットワークについて」と題し提言がおこなわれた。

現在北海道には、百十二名にのぼる学芸員が在職しているが、そのうち自然史系に属

する学芸員は一九名程で、全体の17%ということになる。これを全道の地域別にブロックとしたものにより、その分布状況を概観してみると、道東地域へのある種の偏りが見られることが指摘された。そのうちでも動物を専門としている



る学芸員が多く、昆虫などがこれに次ぎ、魚類や植物などは少ないことも指摘された。

引き続き、厚真町教育委員会の岡崎克則氏から、「博物館とネットワーク」と題して提言がおこなわれた。氏の勤務する厚真町には、博物館施設が設置されていない。過去におよそ三千二百種に及ぶ昆虫標本を購入し、その後専門職員（学芸員）を採用、博物館の建設計画があったものの、現在その計画は停止されているとのことである。施設の設置されていない状況下で厚真の豊かさを地域の人々に理解してもらうため、地域の資源の再評価を地域ぐるみで展開することを活動の理念とし、調査・研究を進めると共に、学校や地域の団体などとのネットワークを組んでいる。こうした展開は、施設こそ設置されていないものの、やがては人と人とを結びつけるうえでの効果が期待できるとであろう。

か。そして、肝心なコレクションには「厚み」が必要なのはないだろうか。最近の状況を見るにつけ、性急さを感じられるのだが、厚真町の場合は、むしろ将来の博物館建設に向けて布石を考えることはできないだろうか。

さて、博物館のネットワーク化事業推進のために、今後どのような方向で進めるべきなのか、各ブロック内でも様々な論議がおこなわれているが、地方博物館にとって「地域情報」の収集、それに対する調査・研究、そしてその成果としてのさらなる「情報」を「共有」してゆくことが重要なこととするならば、人的交流や活字になったものを交換したり、コンピュータによるネットワークの方法も必要と考える。だが、今少し基礎的な部分にたちかえり、博物館としての「コレクションの厚み」を増すべきと考えるのは、ネットワーク化にとってそぐわないことであろうか。

（小樽市博物館学芸員 石神 敏）

私の専門は化石ですが、小さな博物館では様々な専門分野の学芸員を揃えるわけにはいきません。いきおい専門外の資料も扱つことになりませう。

食べられるかどうか分らないキノコ、ガラス窓にぶつかって死んだ鳥、色とりどりの花等々。せっかく持ち込んでいただいた物を「分かりません」と返すのも失礼ですし、専門家に同定を依頼するのも気がひけます。簡単に検索のできる図鑑などがあれば良いのですが、たくさんある図鑑のなかから最も実用的な本を探し出すのもなかなか難しいものです。おそらく他館の学芸員の皆さんも同じ様な悩みをお持ちなのではないかと思いま

す。そこで、化石に詳しくない(もしくはまったく分からない)学芸員のもとに化石が持ち込まれた場合、どの様な本をもとに、どの様な手順で調べれば良いか、私なりに考えてみたことをここに載せていただくことにしました。ちなみに私の場合は、鳥・昆虫・きのこがウィークポイントで

す。どなたか、簡単に調べられる方法をご教示下さい。揃える本

日本の地質「北海道地方」

共立出版

学生版 日本古生物図鑑

北隆館

1/200,000 北海道地質図*

検索方法

まず、化石を持ち込まれた方から、化石を採集した場所

自然系学芸員の現場から② 誰にでもできる化石の同定

三笠市立博物館 主任学芸員 齋木 健一

を詳しく伺います。次に「北海道地質図」で、採集場所の地層の地質年代を調べます。そして「北海道地方」で過去にその付近から報告された化石を調べます。「北海道地方」には、化石の名前は載っていますが、化石の写真や図はありませんから、最後に「日本古生物図鑑」の写真を頼りに持ち込まれた化石に最も似た化石を探し出します。

内川の川岸にある崖で採集された二枚貝の化石を持ち込まれたとしましょう。「北海道地質図」を調べてみると、古第三系 幌内層群の地層がこの地域に分布していることが分かります。つぎに「北海道地方」の目次を引くと第3章「古第三系のなかに「幌内層群」とあり、産出する貝の化石は、Turritella poronaiensis・F

ilgoraria antiquior・Eocylichma multistriata・Yoldia nagaoi・Portlandia watasai・Aclia picturata...などと書かれています。最後に「日本古生物図鑑」の索引からそれぞれの化石の写真を引き、化石と比べてみます。「日本古生物図鑑」でも、すべての化石種が掲載されているわけではありませんから、属名(頭文字が大文字で書かれている部分)の一致するもの



参考にする図書

を探してみます。持ち込まれた化石がAclia nakazimaiやAclia divaricataという貝と良く似ているとすると、化石はAclia(キララガイ)の仲間だと判断できます。(写真下)この方法ですべての化石が同定できるわけではありませんが、化石に関する知識がまったく無くてもかなりの確立で何らかの結論に達することができます。また、ここまで調べて分かなければ、専門家に依頼することもやむを得ないように思われます。ちなみに私も大概この様な方法で持ち込まれた化石を調べています。コツは化石を持ち込

んだお客さんと一緒に調べて、化石の調べ方も勉強していただくことのようにです。学名はアルファベットで書かれていて、取っつきにくい感じはしますが単なる記号だと考えて下されば結構かと思えます。
*地質図は次のところで手に入れることができます。北海道全図だけでなく、各地の5万分の1地質図を扱っていますので、予算に余裕があれば地元の地質図を揃えておくのも良いかも知れません。
札幌市東区21条東2丁目
北海道鉱業振興協会

TEL 011-333-8580



キララガイの化石と図鑑の写真

北海道立北方民族博物館の

友の会について

— 博物館における普及活動の一つの形 —

北方民族博物館の活動範囲

全国にある国公立の人文系博物館（美術館を除く）のうち、その博物館が展示、収集、調査研究などの対象としている

「友の会」について

さらに広い地域を展示、収集、調査研究などの対象としていることになる。

博物館のこのような性格から必然的に、普及活動の形態も考えていかなければならない。講演会、講座といった博物館という場で行われる従来の普及活動では、それに参加できる人は地域的に限定される。しかし当博物館では、広く北方地域の文化を紹介しているため、それに興味や関心を示す方々も、決して網走周辺、および北海道内に限られるわけではない。また、北海道の広大さを考えると、地方中核都市・網走にある当博物館の行事に、例えば札幌から参加するというのは、実際問題として容易なことではない。

北方民族博物館は、網走市にある道立の機関であり、展示では、北海道の先住民であるアイヌをはじめ、北アメリカに住むインuit（エスキモー）や北欧のサミ（ラップ）など、世界の北方諸民族の文化を紹介している。つまり、北海道の行政サービスエリアを含み、

そこで、当館に足を運べない方にも、活動について知ってもらい、さらに北方地域を

中心とした民族学、考古学などにより深い関心を持っていただくため、購読会員形式の「友の会」を平成3年10月に設立した。

会員は年4回ずつ、季刊誌

“Arctic Circle”（アークティック・サークル）と「友の会だより」、

「友の会ニュース」を購読でき、催しの案内が受けられるなどの特典がある。季刊誌は最近の調査に基づく研究成果を、外部の研究者を中心に執筆してもらっている。

今年度末に発行した第10号で、今までに36名の研究者から報



季刊誌 “Arctic Circle”

告していただいた。「友の会だより」は、特別展、シンポジウム、講演会などの報告を、また「友の会ニュース」は、会員相互の情報交換の場として、会員の皆様方からの声を紹介している。

平成6年2月末現在で会員数は約30名、そのうち、北海道外に住む方が約4割であり、また網走周辺以外の北海道内に在住する方は3割となっている。

一般に博物館の普及活動では、その博物館がもつ「資源」（資料、情報、ネットワークなど）と、利用者やこれから利用するであろう人びとの接点（チャンネル）を、い

どこで、どのように作っていくかということが重要である。

その意味でこの「友の会」は、当博物館の対象としているテーマの広がりや、北海道のなかでの立地条件からして、普及活動に果している役割は、決して小さくないと考える。

そして今後は、国内外の研究者、全国にいる会員、そしてその間にいる我々との三者

を相互に結び付ける仕掛けを、いかにして「友の会」で作れるかということを検討してみたい。（北海道立北方民族博物館 学芸員 佐々木亨）

◆入会のご案内

只今平成6年度会員の受付

をしています（個人会員三〇〇〇円）。ご紹介した特典のほか、図録などの割引価格での購入、展示の無料観覧ができます。詳しい案内を用意しています。ご希望の方はご連絡ください。

（〇五）網走市字潮見三一一一

一 北方民族博物館友の会

事務局 電話 〇二五・四六八〇



「友の会だより」と「友の会ニュース」

館・園紹介

門別町図書館郷土資料館

門別町郷土資料館は、昭和四十七年に門別町百年の記念事業として、町内から収集し展示した開拓資料を中心に後世に永く伝えるべく、昭和五十一年に旧役場庁舎を転用し開館したのが始まりです。

その後、郷土資料館の閉館に伴い長らく収蔵資料の活用が懸案事項となっていました。この度、旧郷土資料館の資料と新たに調査した資料を加え、門別百二十年の事業として、平成五年十二月十四日にオープンしました。



当館はその外観にまず特徴があり、流線型のような屋根は過去から現在そして未来へ流れる情報の風を受け止める姿を表現し、正面左に見える円形ドームは沙流川から流れ着いた情報の卵を表しています。また、当館の平面形はL字形をなし、入口と視聴覚室が互いに共用する部分とし、右側が郷土資料館、左側が図書館に分かれています。

郷土資料館

次に展示内容について紹介します。展示は、「沙流川」をメインテーマとし、門別町及びその周辺を含み、歴史・民俗・産業・自然等を時代を追いながら解説しています。展示の特徴としては、まず、入口でビデオや鳥瞰図を使い、門別町と郷土資料館を紹介していること。展示室の中央に大正時代の民家を復元し、誰でも自由に入り

当時の生活様式を体験できるようにしていること。沙流川と自然のコーナーに一万三〇〇〇分の一の流域模型を製作し、町内及び沙流川流域全体を視覚ですぐに理解できるように表現していること。アイヌ文化のコーナーでは、国立民族学博物館の大塚和義教授に監修を依頼し、門別町シノタイ遺跡において、大塚教授自らが調査された研究成果に基づき、メカジキの送りを再現したことが挙げられます。

最後に図書館についても簡単に説明します。当図書館は、主として町内に在住する方と町内に通勤通学する方を利用の対象としています。

利用にあたっては、コンピュータによる登録を行い、利用者カードを発行します。本の貸出は二週間を限度とし、一人何冊でも借りることが出来ます。ただし、ビデオ・LDは館内利用のみ、CDは一週間を限度とし一人2点までとしています。

図書館の設備としては、カウンター正面にブラウンジョロビーがあり、雑誌類百四十冊と新聞十一紙が用意されています。この他に、コンピューター学習室にはパソコン十台を設置し、これからの情報化社会に即応できるよう設備を充実していますし、AVコーナーではLD六台、CD四台、ビデオ四台が設置され利用者が手軽に芸術を鑑賞できるようになっています。

現在の蔵書数は四万三千冊ですが、将来的には、円形ドームの児童書コーナーに二万冊

一般書コーナーに五万冊、閉書架庫に三万冊、計十万冊の蔵書を目標としています。

目標

当館は、門別町における生涯学習の拠点。並びに、これからますます増加する多種多様な要望に対応できる情報サービスの一環として、年齢・性別を問わず誰でも自由に気軽に利用できる施設経営を目標としています。

利用案内

開館時間

平日午前10時～午後6時
土日午前10時～午後5時
休館日
月曜日・祝日・月末図書資料整理日・図書特別整理期間(年5日)・年末年始(十二月三十日～一月五日)

休館日

月曜日・祝日・月末図書資料整理日・図書特別整理期間(年5日)・年末年始(十二月三十日～一月五日)

無料

無料
JR富川駅より徒歩三十分
道南バス(門別警察署前)
徒歩三分

(文責)

門別町図書館郷土資料館
学芸員 川内谷修

図書館

南西沖地震被害

調査の集約

北海道博物館協会事務局では、釧路沖地震につづいて起こった「北海道南西沖地震」の加盟館園を中心にした被害調査を行いました。今回は、前回調査の対比の上からも調査項目は同じにしました。

一、回収状況

配布館園 52館、回答35館 (67.3%)

二、被害館園数

回答館のうち被害あり13館、被害なし22館

三、主な被害状況

1. 知内町郷土資料館、窓ガラス及び便所タイル損壊、土器35個損壊
2. 七飯町郷土資料館、土器2個落下損壊
3. 青函トンネル記念館 展示ケース(ガラス)及び陳列棚損壊
4. 道立函館美術館 軸物展示用保護ガラス63枚破損
5. 函館市北方民族資料館

展示資料の一部及び展示室壁等崩落損壊

6. 八雲町郷土資料館

展示考古資料6点及び蔵庫内土器等10個の損壊

7. 江差追分会館

VTR落下による破損、公用車の津波による浸水

8. 江差町郷土資料館

展示用土器約30個及び収蔵中の土器10点倒壊

9. 上ノ国町郷土館

縄文土器2個及び保存処理用パラロイドB72系薬品ビン損壊

10. 瀬棚町郷土館

展示ケースのガラス並びに道指定文化財を含む土器39個損壊

11. とまりん館

土器約30個が棚より落下

12. 余市水産博物館

酒徳利2個落下崩壊

略)

四、すでに実施している被害防止の具体的方策(館名省す)
 ・重量物は床置を撤去する
 ・日本海中部地震の教訓をふまえ展示室の要所要所をロープで固定。

・土器等の転倒防止棚設置
 ・土器台座使用の徹底
 ・自転車チューブ等を利用して不意の転倒を防止

五、地震など災害に対して

博物館園で考慮すること

・展示品や照明装置を吊るしたり掛けたりすること
 ・耐震装置の定期的点検
 ・入館者への避難誘導対策
 ・二次災害としての火災を考慮して、文献、文書等のマイクロ化やパソコン

のマイクロー化やパソコン

入力を検討はしたい

・道指定文化財等修復の補助制度を確立してほしい

・避難ルート、非常口の定期点検

・入館者に対する避難訓練

・災害保険への加入
 以上が、現在までの集約の中間報告です。

昨年は「釧路沖地震」「北海道南西沖地震」と息もつか

せず襲来し、わが道博協加盟館園にも大きな被害をもたら

しました。これを機会に地震

等自然災害に対する心がまえ、その具体的対策等の提言を

「道博協ニュース」にお寄せ下さい。

(事務局)

事務局日誌

11・25(木) 平成5年度

秋季飼育技術者研究会(登別市・のほりべつクマ牧場)

11・26(金) 博物館活動

交流推進会議(道南ブロック学芸員等会議、八雲町・八雲町郷土資料館)

12・3(金) 博物館活動

交流推進会議(道央ブロック学芸員等会議、小樽市・ニューミナト)

12・7(火) 協会加入申し込み受理(かみすながわ炭鉱館・上砂川町)

3・5(土) 南西沖地震被害実態調査アンケート集約

3・9(木) 学芸員部会役員会(小樽市、野村出席)

3・15(火) 事務局打合わせ

3・24(木) 第3回役員会(札幌市)

12・28(火) 『道博協ニュース』No.45発送

12・28(火) 南西沖地震被害実態

調査(アンケート、渡島・松山・後志・留萌・宗谷管内対象) 発送

6・1・8(土) 協会加入申し込み受理(由利ゆめっく館・由仁町)

1・20(木) 事務局打合わせ

1・27(木) 動水協北海道ブロック園館長会議(札幌市)

1・28(金) 帯広百年記念館展示改訂開会式(野村事務局長出席)

2・16(木) 中川顧問叙勲申請に伴う協会功績原稿作成について

札幌市清田出張所小黒氏の訪問を受け、資料協力

3・5(土) 南西沖地震被害実態調査アンケート集約

3・9(木) 学芸員部会役員会(小樽市、野村出席)

3・15(火) 事務局打合わせ

3・24(木) 第3回役員会(札幌市)

12・28(火) 『道博協ニュース』No.45発送

12・28(火) 南西沖地震被害実態

調査(アンケート、渡島・松山・後志・留萌・宗谷管内対象) 発送

6・1・8(土) 協会加入申し込み受理(由利ゆめっく館・由仁町)

1・20(木) 事務局打合わせ
 1・27(木) 動水協北海道ブロック園館長会議(札幌市)
 1・28(金) 帯広百年記念館展示改訂開会式(野村事務局長出席)
 2・16(木) 中川顧問叙勲申請に伴う協会功績原稿作成について
 札幌市清田出張所小黒氏の訪問を受け、資料協力
 3・5(土) 南西沖地震被害実態調査アンケート集約
 3・9(木) 学芸員部会役員会(小樽市、野村出席)
 3・15(火) 事務局打合わせ
 3・24(木) 第3回役員会(札幌市)
 12・28(火) 『道博協ニュース』No.45発送
 12・28(火) 南西沖地震被害実態